

赤十字 Supporters

〈簡易マスクの作製支援〉 協力して困難を乗り越える

武蔵野市赤十字奉仕団／三鷹市赤十字奉仕団／小金井市赤十字奉仕団

災

害時に備えた活動や福祉施設での奉仕活動、献血の呼びかけなど、地域に根ざした活動を行っているのが地域赤十字奉仕団です。5月の赤十字運動月間には、戸別訪問をして活動資金を募集するなど、まさに赤十字の根底を支えています。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、今年度に入ってから奉仕団活動は軒並み中止になりました。団員の皆さんは「困難な時期だからこそ、自分たちも役に立ちたい」「自宅にいることしかできない自分に無力さを感じていた」と言います。

医療物資の不足は武蔵野赤十字病院も例外ではなく、感染者さんと濃厚接触しない職員（医師、看護師を含む）は、3月上旬から病院が確保した既製品のマスクを使用できなくなり、手術の際に使用する滅菌ドレープ（不織布）を転用した簡易マスクを職員



武蔵野市の松井浩子さんは「私たちもお役に立てることがあるのだと分かりうれしかった」



「気持ちを込めて作りました。健康でいるからこそのご奉仕」と三鷹市の中館文子さん



滅菌処理されたマスク。「医療従事者の皆さんが責任と使命感をもって立ち向かっている姿に感動と感謝」と小金井市の阿美澄枝さん

や院内ボランティアによって作せざるをえなくなりました。しかし、緊急事態宣言が出され院内ボランティアの来院も困難に。

そこで東京都支部では、武蔵野赤十字病院近郊の地域赤十字奉仕団に簡易マスクの作製支援を依頼。団員は「病院で働く方への感謝を伝えることができる」「日赤奉仕団で活動している以上、お手伝いができることが大変うれしい」と喜んで協力してくれました。作業前には手指消毒を行うなど、衛生面に留意して各自が自宅で作業。団員の1人は、「医療スタッフの皆さんの姿を思い浮かべながら、願いと祈りを込めて仕上げました」と語ります。

作製した数、約9400枚。材料や完成品の受け渡しの際には、感染防止を徹底しました。職員は「安心感もあって有効に活用させてもらっています」と感謝。病院で滅菌処理を施し、大切に使用されました。

奉仕団では、「1人の力は小さいけれど、多くの人が手をつなぎ協力すれば、どんな困難も乗り越えられます。楽しみながら私たちと奉仕活動してみませんか」と呼びかけています。